

京セラ株式会社 2016年3月期 第3四半期 決算カンファレンスコール
(2016年1月29日実施)

代表取締役社長 山口悟郎 スピーチ

<3. 2016年3月期第3四半期累計 決算概要>

当期第3四半期累計の連結業績は、売上高は前年同期に比べほぼ横ばいとなりました。利益は「電子デバイス関連事業」における営業権の減損をはじめとした費用、約230億円の計上に加え、為替変動の影響による「情報機器関連事業」の減益を主因に前年同期に比べ減少しました。

平均為替レートは資料の下段にありますとおり、米ドルは前年同期に比べ15円円安の122円、ユーロは6円円高の134円となり、このドル高円安を主因に前年同期に比べ売上高に対して約410億円、税引前利益に対しては約60億円の押し上げ要因となりました。

<4. 2016年3月期第3四半期累計 事業セグメント別業績(1)>

「ファインセラミック部品関連事業」については、半導体製造装置などの産業機械向けのセラミック部品やカメラモジュールなどの自動車用部品の売上が伸び、セグメント全体で6.4%の増収となりました。利益は増収効果により6.2%の増益となりました。

「半導体部品関連事業」では、スマートフォン関連を中心とした通信市場向けのパッケージや基板、及び自動車市場向けのLED用パッケージの売上が増加したことにより3.4%の増収となりましたが、利益は製品価格の下落などの影響を受け微減となりました。

<5. 2016年3月期第3四半期累計 事業セグメント別業績(2)>

「ファインセラミック応用品関連事業」は、機械工具事業の売上は自動車関連市場を中心に伸びたものの、国内でのソーラーエネルギー事業の売上が減少したことにより、セグメント全体では6.1%の減収となりました。売上は減少したものの、

ソーラーエネルギー事業の原価低減による利益改善を主因に、セグメント全体の利益は30.6%の増益となりました。

「電子デバイス関連事業」は、スマートフォン向けのコンデンサや産業機器向けのプリンティングデバイスの売上が伸びたことに加え、昨年9月にグループ入りした日本インターの売上貢献もあり、3.2%の増収となりました。一方、利益はディスプレイ事業において営業権の減損などを実施したことに伴う費用、約180億円に加え、米国子会社AVXにおいて特許訴訟関連費用約50億円を計上したことを主因に86.6%の減益となりました。

<6. 2016年3月期第3四半期累計 事業セグメント別業績(3)>

「通信機器関連事業」は、耐久性や防水性に優れた端末の販売が堅調に推移しましたが、PHS関連製品及びローエンド端末の販売減や、製品ラインナップの見直しに伴う新規投入モデル数が減少したことにより、15.1%の減収となりました。利益については第2四半期、第3四半期は黒字となったものの、9ヵ月累計では売上減の影響により39億円の損失となりました。

一方、「情報機器関連事業」は、価格下落や欧州をはじめ総じて厳しい市場環境でしたが、積極的な拡販活動を進めたことによりプリンター及び複合機の販売台数が伸び、1.5%の増収となりました。利益は為替変動の影響により原材料費が増加したことを主因に、31.3%の減益となりました。

<7. 2016年3月期第3四半期累計 事業セグメント別業績(4)>

「その他の事業」の売上はほぼ横ばいとなりました。一方、利益は重点市場における新技術・新製品に対する開発費は増加しましたが、資産売却益を計上したことにより前年同期に比べ72億円の増加となりました。

以上が第3四半期の実績についての説明です。

< 9. 2016年3月期通期 業績予想 >

第4四半期においては、自動車及び半導体製造装置用部品の売上増が見込まれる一方で、中国経済の減速やスマートフォンの生産調整などの影響により、事業環境は昨年10月時点での想定を下回って推移する見通しです。このような見通しを踏まえ、当社は通期の売上高、営業利益、税引前利益を資料に記載のとおり修正しました。なお、当期純利益については国内の税制改正に伴う影響などを考慮し、前回予想を上回る見通しです。

これに伴い、セグメント別の売上、利益も10ページ、11ページに記載のとおり修正しています。

以上